

2019年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：アメリカ ワシントンカレッジ

留学期間：2019年8月～2020年5月

ワシントン・カレッジに留学中、意欲的に取り組んだことは勉強です。特に頑張った授業は、前期に履修した First Year Seminar（以下“FYS”）の Imagining Leadership と Principles of Microeconomics です。前期は私の英語力があまり高くなかったため、Academic Adviser の Oros 先生と話し合い、一年生向けの授業と難易度が低めの授業（100レベル）を取ることにしました。

Imagining Leadership では、世界各国のリーダーを取り上げて、彼または彼女がどのようなリーダーシップを発揮しているか学ぶという授業でした。FYS は一年生向けの授業なのでそこまで課題は多くないと予想していましたが、予想に反して膨大な量の課題が出たので最も大変な授業の一つでした。プレゼンテーション、毎週火曜日の夜8時から観る映画の感想、リーディングとディスカッション、リサーチペーパー、インタビュー、こまめに出るミニペーパーなどにかく宿題の量が多かったです。授業の予習、復習、課題は Kimberly というエルサルバドル出身の友人と一緒に図書館で取り組みました。彼女は第二言語が英語で私と同様の苦労をした経験があり、英語があまり話せない私をいつも気遣ってサポートしてくれました。授業で私がいわからなかったところと一緒に復習してくれたり、私の宿題をチェックしてくれたり、論文と一緒に読んだり彼女のおかげで沢山の課題をこなすことができました。

Principles of Microeconomics はミクロ経済学入門の授業でした。FYS のように膨大な宿題が出るという授業ではなかったのですが、教授の板書量が多く、スピードが速かったので授業中はノートを取るのに必死でした。ミクロ経済学を学ぶのが初めてであったことと専門用語が多いということで、はじめは授業についていくのが大変でしたが、授業の後には毎回、復習も兼ねてノートを書き直したり、分からない箇所は授業後に教授に質問したり、Tutoring を利用したりして、授業内容を把握しました。また、授業で仲良くなった台湾人の Brandon にテスト前に総復習してもらったおかげで、テストでは良い成績を修めることができました。

前期は、毎日図書館で夜遅くまで勉強した努力が実り、FYS と Principles of Microeconomics は A という成績を取ることができました。また、他の授業でも良い成績を修めることができたので Dean's List に名前が記載され公表されました。Dean's List（“Dean”とは「学部長」のことです。）とは、良い成績を修めた学生のリストのことで、毎学期このリストが公表されます。ワシントン・カレッジでは、GPA が 3.5 以上の学生が対象となります。

秋学期は本当に大変でしたが、苦労した甲斐あって良い成績を修めることができ大変嬉しかったです。